

あすなろ

第 13 号

発行 弘前大学教育学部
同窓会

〒036 弘前市大字文京町 1
TEL. 0172 (36) 2111代表
編集事務局

弘前市大字豊原一丁目 3 の 3
弘前市立第三中学校内
TEL. 0172 (32) 2361



組織の充実を願って

同窓会長

木村 清之助

春の息吹が聞こえてくる此の頃ですが、会員の皆様にはご健勝でご活躍のことと拝察いたします。

お陰様をもちまして、今年度の本会の事業を順調に進でましたことに感謝いたします。

さて前号でお知らせしてあります教育学部の附属教育実践研究指導センターが、現在工事が進められておりまして、来る三月十八日に落成式を行うことになったとのことで、誠に同慶のいたりと存じます。本紙の記事で紹介してありますように、三階建の立派な建物でございます。同窓会としても一層の充実のため、落成の記念として、ワークステーション一式、プリンター、同センターの玄関に掲げる銅板の表札を寄贈することになりました。このことを去る二月一日の役員会で決定しましたが、今後の研究と教員の現職教育のセンターとして、充実したものになることを期待したいと思います。

昨年度の教育学部第一回卒業生に続いて、今年度は第二回生が定年退職を迎えることになりました。今後、会報の配布や諸連絡等に支障のないよう、各支部内に班を作るなど、下部組織の充実が努めなければなりません。今回平成三年度版の会員名簿が発刊になりますが、この頒布を機として連絡網を整備していただきたいと思っております。教育界は新学習指導要領の実施や取り沙汰されている週五日制への対応など、解決しなければならぬ多くの問題を抱えることとなります。

会員皆様のご健闘を祈念いたします。

教育実践研究指導センターについて

センター長 教授 福 士 襄

教育学部将来計画委員会が昭和五三年に実施したアンケートで、多くの教官が「附属研究センターが必要である」と回答した。これを受けて五六年十二月教授会で教育実践研究指導センター設置準備委員会の設置が決定し、五八年度より概算要求が繰り返され、六三年四月に待望の設置が認められた。しかし、なかなか建築予算がつかず、やっと平成三年八月より建築に取りかかり、四年三月末に竣工の運びとなった。この事業を強力に推進された竹内照宗元学部長のご努力に深く敬意を表するとともに、支援して下さった東野修治学長および事務局の方々に感謝の意を表したい。

教育学部附属教育実践研究指導センターは、教育学部の西側にあり、学部とは渡り廊下で接続して、玄関は富士見町側にある。三階建五三〇平方メートルで、主な部屋としては次のようなものがある。

一階には、事務室、教材作成室（カラーコピー、丁合、紙折り、製本、パソコン教材作成、AV教材作成）、自主学習室（ビデオの視聴、パソコン学習）がある。二階には、センター長室、教官研究室、研究員研究室兼資料室（図書、ビデオライブラリ、各種教材の閲覧、視聴、貸出し）、教育工学演習室（教育機器や教

育方法の基礎研究、開発、演習）がある。三階には、マイクロテーチング室兼スタジオ（模擬授業の録画録音、ビデオ収録小スタジオ、四〇名収容の会議室等の多目的ルーム）、情報処理室（情報機器による教育情報処理の中枢）がある。

センターの目的は、教育内容、教育方法及び教育実習についての実証的な研究開発とともに、教育実践を対象とした教育研究を推進し、実際の指導力をつけた教員養成を図ることである。そのためには次のような業務を行うことが考えられる。

①教育実習の内容、方法等の改善及び指導。②教科教育、教材研究等の実践的分野に関する研究及び指導。③教育機器利用に関するシステム及び教材の開発並びに指導。④授業の各種分析研究。⑤資料の収集及び研究成果の発表。⑥現職教員等の研修。⑦その他センターの目的達成に必要な業務。

センターの特色として次のことがあげられる。第一は地域教育のかかえている問題を研究するため、大学や附属学校の教官だけでなく、公私立学校教員等が研究員になれることをセンター規則にうたっていることである。第二にコンピュータやニューメディア機器を利用しての学生の自主学習能力を高めるために、

自主学習室を設けていることである。第三に大学情報処理センターと連結して高い情報収集処理能力を有していることである。

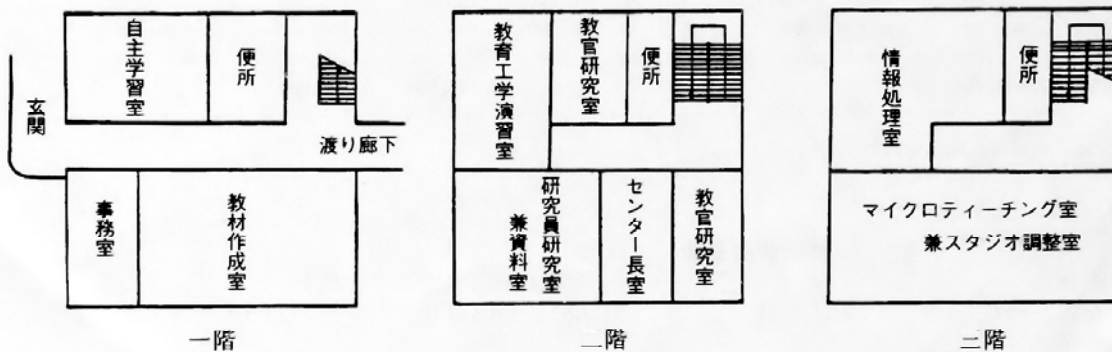
センターの現在の人的構成は、センター長（兼任）の下にセンター専任助教二名がおり、教科教育・教育実習分野（吹貝賢一）、教育工学・情報処理分野（小山智史）を担当している。そして、センターの業務の円滑な運営を図るために運営委員会が置かれており、基本方針に関することや予算等を審議する。委員会は、センター長、センター専任教官、教育学部選出教官、各附属学校選出教官で構成されている。

今まで行った主な事業としては次のようなものがある。①「センター・ニュース」が三回発行されている。②「教育情報処理講習会」が平成三年三月より教職員及びび学生を対象に行われ、現在まで三回開催した。③「教育・福祉とエレクトロニクス懇話会」が三年九月に発足し、毎月一回開催されている。④「障害者用ソフトバック」のコピーサービス。

センター間の国内組織としては、国立大学教育工学センター協議会があり、国際的動向、共同研究成果の発表、情報交流が行われる。また東北地区組織としては共同研究プロジェクトがあり、「教育方法・技術の教育カリキュラム開発」のテーマで研究が続いている。

センターは、単に教育学部の一施設に留まらず、教育を志す人の共通の財産である。広く門戸を開き、誰でも自由に集い、交流し、学ぶことのできる共同利用の研究施設にしたい。同窓会の方々の積極的な利用を期待します。

教育実践研究指導センター平面図



平成三年度 定時総会報告

平成三年度弘前大学教育学部同窓会総会は、ゴールデンウィーク後半の五月五日(日)午後二時三〇分より木村同窓会長はじめ役員・各支部長・評議員を合わせ、計三〇名ほどの出席のもと弘前市百石町大和家にて開催された。

総会は今泉議長(弘前・中郡支部、裾野中)の当を得た適切な処理により円滑に運び、議事は審議の後、すべて承認され、実施にうつされることとなった。議

事の中では特に大きな事業である同窓会名簿の作成(改訂)・発行に話題が集中し、一部質問・意見等が出されたものの事務局案が承認された。

続いて行われた懇親会では、各支部の活動の模様や情報交換が自然になされ、同窓会活動のあり方や今後の方向などについて和やかに語り合った。

総会次第

1. 開会の言葉
2. 会長挨拶
3. 来賓祝辞
4. 議事
 - ア. 庶務報告
 - イ. 監査報告
 - ウ. 平成2年度 決算報告
 - エ. 会則審議
 - オ. 平成3年度 事業計画
 - カ. 平成3年度 予算審議
 - キ. 役員改選
 - ク. その他
5. 閉会の言葉

庶務報告

- 2・7・7 平成2年度総会(大和家にて)
- 2・8・22 同窓会費納入依頼(1)
- 2・11・30 県教委定例懇親会
- 3・1・18 同窓会費納入依頼(2)
- 3・2・14 教育実習運営協議会
- 3・3・15 会報「あすなろ」第12号発行
- 3・3・19 弘前大学 卒業式・祝賀会
- 3・3・19 同窓会費納入依頼(3)
- 3・4・2 教育学部長・事務長、挨拶
- 3・4・20 平成3年度総会案内状発送
- 3・4・29 事務局打ち合せ
- 3・4・30 会計監査
- 3・5・1 事務局会議

☆ 教育学部 厚生係・会計係との事務連絡は随時。

平成2年度収支決算報告書

(2. 4. 1~3. 3. 31)

収入の部			
	2年度予算	2年度決算	備考
終身会員	2,450,000	2,375,540	} 7,000×150 6,940×191
繰越金	68,658	68,658	
雑収入	3,000	92,252	利子 名簿
計	2,521,658	2,536,450	
支出の部			
	2年度予算	2年度決算	備考
総会費	150,000	126,000	
評議会費	150,000	96,000	
支部活動費	300,000	300,000	30,000×10
会費徴収費	30,000	9,270	会費納入チラシ
通信費	30,000	24,464	督促状その他
就職対策費	700,000	700,000	大学50万 県教委20万
教生対策費	250,000	250,000	
大学院対策費	300,000	300,000	
祝儀	150,000	177,150	卒業祝賀会他
会報	200,000	202,910	あすなろ12号
基金	150,000	150,000	
事務費	100,000	100,000	大学事務謝礼
雑費	11,658	7,000	見舞い 香典
計	2,521,658	2,442,794	

繰越金 93,656円

平成3年度予算書

収入の部			
	2年度決算	3年度予算	備考
終身会費	2,375,540	2,380,000	7,000×340
繰越金	68,658	93,656	
雑収入	92,252	10,000	利子他
計	2,536,450	2,483,656	
支出の部			
	2年度決算	3年度予算	備考
総会費	126,000	150,000	
評議会費	96,000	100,000	
支部活動費	300,000	300,000	30,000×10
会費徴収費	9,270	30,000	会費納入チラシ封筒
通信費	24,464	30,000	督促状その他
就職対策費	700,000	700,000	大学50万 県教委20万
教生対策費	250,000	250,000	
大学院対策費	300,000	300,000	
祝儀	177,150	150,000	卒業祝賀会他
会報	202,910	210,000	あすなろ13号
基金	150,000	100,000	
事務費	100,000	100,000	大学事務謝礼
雑費	7,000	63,656	見舞い
計	2,442,794	2,483,656	

事業計画

- | | | |
|-----------------|--------|------------------------|
| 1. 総会 | 特別会計基金 | 20,931,735円 |
| 2. 県教委との懇親会 | | 150,000円(平成2年度) |
| 3. 会報「あすなろ」の発行 | 計 | 21,081,735円(H3.3.31現在) |
| 4. 弘前大学 卒業式・祝賀会 | | |
| 5. 教育実習反省会 | | |
| 6. 名簿作成・発行 | | |
| 7. その他 | | |



教育学部の近況

心理学教室

丹 藤 進

大学入試センター試験が終わると、期末試験、二次試験、卒業式へと目まぐるしく時が移り、大学には最も活気ある季節がやって来ます。各教室では、卒論発表会、反省会、追コンと続き、鍛冶町や西弘を賑わすのも、もう間もなくです。

さて、今年度も学部の教官に移動がありました。地学の岩井武彦先生と保健体育の大庭健吾先生は、私たちに多くの教訓と思いつく出を残し、惜まれて退職されました。さらに、二月には看護の津島律先生、三月には養教の武田壤壽先生の退職が予定されております。代って、教育実践研究指導センターの吹貝賢一先生、地学には同窓(四九年卒)の鎌田耕太郎先生をお迎えすることが出来ました。

卒業生の就職状況ですが、「あすなろ一〇号」で紹介した「青森県教員の合格率の低下傾向」は同窓の皆様のご支援もあって、増加傾向に転じ、平成四年度は前年より六・七%増の六二・九%となりました。ただし、出身県の多様化もあってか、受験者数は昨年にくらべて、六七名減り、一四三名でした。

ところで、昨年九月より建築を進めてきた教育実践研究指導センターが三月一六日竣工の予定です。学部校舎西側の講

義棟と美術・技術などの研究棟の中間、道路側に面した位置で、鉄筋コンクリート三階建、五三三平方米です。新年度からフル稼働することになるでしょう。

なお、教育職員免許法の改訂に沿った学部の新カリキュラムによる授業は四月より本格化します。また、週休二日となり、土曜日には授業が組まれなくなり、養部の改革という流れの中で、教育学部もこれから大きく変わろうとしています。

学生の行動変化ですが、最近自動車通学が増え、朝早い時間に学部前の駐車場は一杯になります。少し遅くなると、空所を探して右往左往することになるので、教官もちよびり早起きになったような気がします。通学の不便さに応じて駐車許可証を発行し、校内乗り入れを規制しているのですが、車は増加の一途をたどっています。特に、秋から冬にかけて、就職内定した四年度次学生が車を買う、あるいは買ってもらうケースが多くなるのだそうです。この分では、大学選びの際に、駐車場の広さが評価項目の一つになるのではないかと考えています。

(三五年卒・教育心理学教授)

支部だより

青森・東郡支部

沖館中学校 秋元 毅一

東青支部には、各校種にわたり、約千二百名の同窓生が勤務しております。

本年度、当支部管内では各種研究大会等が開催され、多くの実り多い成果をあげられたことを見聞きし、会員各位の活躍に對して心から敬意を表したいと思います。

当支部では、これまで同窓会員を対象にしての事業は、特に実施してはおりませんでした。母校に在学中、弘前までの汽車通学で苦楽を共にした一回生を中心に参加を呼びかけたところ、

黒石・南郡支部

田舎館小学校 秋田 豊

弘前大学教育学部同窓会々員の教育現場で指導的な立場や中堅として、すばらしい活躍をしている姿を眼のあたりに見ると、力強い教育実践者に深い敬意を表するところであります。

南黒支部における同窓会々員は約六百名で同窓会全体からは約10%となっております。昨年五月五日に総会が開催され、平成三年度の活動計画を中心に各支部の情報交換が行われました。各支部長、評議員から熱のこもった報告を受け、充実した活動を目指して鋭意努力をされている姿に四十余年間の同窓会の歴史を垣間見る

思いでした。

二十一名の賛同を得て、各位の近況と当時の懐旧談に花を咲かせることができましたことは望外の喜びでした。本学部同窓会は、会則三条にある通り、会員相互の連絡・親睦を図ることを目的としています。当支部でもこれを受けて、この懇親会をさらに対象を拡大して継続させたいものと考えております。

東青支部長はこれまで伊藤孝先生が務めてこられました。昨年度末で、ご勇退がございましたので、その後を私が引き継ぎさせていただきます。本部との連携を密にしながら、当支部の結束を図っていきたくと考えております。幽明境を異にする会員もおられます。お互い自重、自愛しながら教育に専念したいものです。

本会の年間における諸事業の中から思うに、県教育委員会と弘大教育学部との太いパイプ役としての活動が何としても重要かと思えます。教員採用に關しての情報交換の中から、解決しなければならぬ課題がいくつもあります。また教育実習生の受け入れとその指導等学部と現場との深い関連が大きいと思えます。

また本年は会員名簿改訂版の発刊と大きな事業があり、会員相互の連絡と親睦を図るための重要な資料であり感謝申し上げます。会長はじめ事務局の労が大きいと思えます。今後南黒支部と致しましても、より具体的な協力をし会発展に微力ではありますが尽したいと思えます。

平成三年度役員

顧問

齋藤 善三(弘前市)
太田 薫(弘前市)

会長

木村清之助(弘前三中)

副会長

川原田満有(青森古川中)
中居 貞夫(八戸市教委)
竹内 照明(五所川原四中)
杉山 芬(青森市)
工藤 陸男(弘前大学)

会計・監査

猪狩 清一(弘前工業高)
塩原 鉄郎(弘前大学)

支部長

- 1. 弘前・中郡支部
野呂 恙二(弘前南中)
- 2. 黒石・南郡支部
盛 皓(藤崎中)
- 3. 五所川原・北郡支部
竹内 照明(五所川原四中)
- 4. 西郡支部
高橋 秀一(木造館岡中)
- 5. 青森・東郡支部
秋元 毅一(青森沖館中)
- 6. 八戸・三戸郡支部
新山 徹(八戸中居林小)
- 7. 三沢・十和田・上北郡支部
佐藤 久東(十和田中)
- 8. むつ・下北郡支部
須藤 昭栄(むつ中)

評議員

1. 弘前・中郡支部

工藤 哲平(致遠小)
赤石 和夫(三大小)
小野 禎亮(弘前市)
佐々木利直(東目屋小)
今泉 徹三(裾野中)
笹森 義男(弘二中)
高岡 實(新和中)
佐藤 貞子(西目屋中)
猪狩 清一(弘前工業高)

2. 黒石・南郡支部

土岐 和正(六郷中)
飯塚 洋(尾上中)
佐々木静二(北陽小)
高木 了司(浅瀬石小)
西塚 眞(平賀東小)
古村 榮港(常盤小)
山内 昇(大鰐第二小)
大和田一衛(光田寺小)

3. 五所川原・北郡支部

浅見 則昭(栄小)
藤田 信範(金木南中)
佐藤 常義(梅沢小)
北沢アキ子(大沢内小)
山内 隆(五所川原小)
神 修治(市浦中)

10. その他の地区支部

9. 弘前大学教育学部支部
齋藤 繁(弘前大学)
小笠原俊亮(鶴田中)
渡辺 成吉(柏中)
齋藤 守(鶴田中)

4. 西郡支部

千葉 良一(柏中)
福士 光俊(菰穂小)
三上健之助(川除小)
小林 弘明(赤石小)
三浦 昭(大戸瀬小)
種田 清志(岩崎中)
村上靖一郎(車力小)
小野 肇(稲垣中)
藤田 譲(森田中)

5. 青森・東郡支部

山口 茂樹(沖館小)
沼沢 武志(堤小)
秋元 毅一(沖館中)
島津宏一郎(市教委)
石戸 励(平内高)
高橋 裕(第二養護)
小松 詰(蟹田大山小)
小笠原逸朗(西平内中)

6. 八戸・三戸郡支部

中川原兵威(根岸小)
一戸 胤夫(三戸中)
赤沢 正敏(八工高)
坂本 哲造(下長中)
佐々木英治(東中)
横田 良雄(五戸中)
寺牛 みよ(寺小)

7. 三沢・十和田・上北郡支部

内海 正俊(六戸高)
立崎 庸夫(三沢商高)
中嶋 豊(泊中)
山田 誠司(三沢市教委)
西村 透(藤坂小)
菊池 良久(七戸小)
真石 徹(甲洋小)

8. むつ・下北郡支部

水谷 智(苦生小)
松田 里司(川内中)
尾本 公英(むつ中)
上岐 勝(宿野部小)
村川 睦子(田名部中)
高橋 昭一(脇野沢中)

9. 大学教育学部支部

丹藤 進(教育)
奈良 忠(附小)
中村 卓三(附中)
赤田 晴美(附幼)
木村美津子(附養)

常任委員

工藤 光男(新和中)
相馬 正栄(弘前三中)

